体育科

子どもの運動有能感を高める体育授業づくり
～ネット型と走り高跳びの実践を通して～

長岡市立栃尾東小学校
髙橋　健一朗（平成 28 年度）

【主張】

本実践では、「子どもの運動有能感が高まる体育授業になること」を目的に、集団運動となるネット型と、個人に焦点があたる走り高跳びの２つの実践を行った。実践前後の運動有能感のアンケートによる得点や児童の姿の変容から、手立ての有効性を検証した。主な共通する手立てとしては、①運動課題の可視化や目標の設定及びその解決への支援、②必要感のある協働とその中での肯定的な関わりを奨励する働きかけ、③成長を認知しやすくする単元構成や ICT の活用を講じた。

これらの手立てを講じた結果、いずれの学習においても練習や工夫をすればできるという「統制感」と人から認められているという「受容感」を中心に運動有能感の得点を向上させることができた。また、ネット型では役割や作戦をもとにチームでボールがつながるように工夫をしたり、仲間や相手のプレーを称賛したりして運動の楽しさを味わう姿が表出された。走り高跳びでは、目標や自己の課題解決に向けて、様々な場や用具を活用して練習を工夫したり、仲間と励まし合って練習したりする姿が表出され、運動有能感の高まりを感じられる姿が実現できた。